



認知症あれこれ話

# 相手に寄り添う関わりで 家族も笑顔



「毎日泥棒が入って困る」とご近所さんから施設に相談がありました。実際には泥棒に入られてはならず、認知症の症状からくる訴えだと分かりました。人は誰でも認知症になる可能性があります。また様々なきっかけで脳の細胞が変化することにより、症状も一人ひとり違います。そんな認知症の人との関わり方についてご紹介します。

## 物盗られ妄想

「2階に洗濯物を干しに行って、下りてくると毎日のように台所の物が盗まれているんや」

### 対応方法

こちらとしては「そんなはずないでしょ」と返してしまいそうになります。でも本人は盗まれたことを本当に困っています。ここはまず相手の話を聞くことから始め、「私も怪しい人を見かけたら教えますから、何かあったら言ってください」と、安心していただけるような声掛けをします。

## 着衣失行

「この上着、なんや上手く着れんのか」  
(ズボンを上着として着ようとされていました)

### 対応方法

上着の袖に手を通すことができない、ズボンの片方に両足を入れてしまうなど、身体の機能としては問題がないのに、服を着ることが難しくなることがあります。

関わり方として、「この袖に右手を入れてください」「片足を入れてください」と1つずつ動作を伝えます。言葉で上手く伝

わらない時はジェスチャーや袖の部分を広げて、服に入れようとする手を誘導します。ポイントとしてはできない部分のみを手伝うことです。全部を手伝ってしまうと自分ではできなくなります。

## ひとり歩き(徘徊)

### 対応方法

「ひとり歩き」は「昼夜問わず当てもなく歩きまわっているように見える」行動ですが、多くはご本人なりの目的や理由があるとされています。単に散歩しているのか、困っているのかは表情を見ると分かります。家に帰ることができているのであれば、一緒に歩いて見守ることが大切です。「ひとり歩き」を止めようと家から出られないようにしてしまうと、より感情的になつたりうつ状態になつたりします。

関わり方、声の掛け方1つで不安や疑問が「安心」に変わります。また繰り返し訴えることもあります。同じように対応しても構いません。相手に寄り添う関わりで、家族も笑顔の介護を行いたいものです。

### Profile

大野きらめき グループホーム

坪内 勝俊 (福井県認知症介護指導者)



大野きらめき

受付時間/  
月～土 8:30～17:30  
(年末年始を除く・祝日含む)  
TEL.0779-66-1211

高齢者介護  
きらめき

ホームページ

